

特許協力条約

P C T

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

REC'D 28 APR 2005

WIPO

PCT

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
[PCT36 条及び PCT 規則 70]

出願人又は代理人 の書類記号 P04-32	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/005146	国際出願日 (日.月.年) 09.04.2004	優先日 (日.月.年) 09.04.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. 7C08B 37/00, A23L 1/30, A23L 1/308, A61K 31/736, A61P 1/14, 35/00, 3/06, 3/10		
出願人 (氏名又は名称) フィリップス ハイドロコロイド リサーチ リミテッド		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a. 附属書類は全部で _____ ページである。

振正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)

第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b. 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するデータを含む。 (実施細則第 802 号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
 第 II 欄 優先権
 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
 第 V 欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第 VI 欄 ある種の引用文献
 第 VII 欄 国際出願の不備
 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 28.10.2004	国際予備審査報告を作成した日 15.04.2005
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 渕野 留香 電話番号 03-3581-1101 内線 3492

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

この報告は、_____語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
 PCT規則12.4にいう国際公開
 PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

出願時の国際出願書類

明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
第 _____ ページ*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
第 _____ 項*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ 項*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
第 _____ ページ/図*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ/図*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 振正により、下記の書類が削除された。

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表(具体的に記載すること)
 配列表に関するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した振正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その振正がされなかつたものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表(具体的に記載すること)
 配列表に関するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 <u>1 - 2 0</u>	有
	請求の範囲 _____	無
進歩性 (I S)	請求の範囲 <u>1 - 2 0</u>	有
	請求の範囲 _____	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 <u>1 - 2 0</u>	有
	請求の範囲 _____	無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1) JP 2000-166489 A

文献2) JP 2-49001 A

文献3) 明尾ら, 月刊フードケミカル, 2002-6, p85-89, 2002

文献4) コロイド ナチュラルズ インターナショナル, 月刊フードケミカル, 1997-7, p102-104, 1997

請求の範囲1-20に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1-4の何れにも開示されておらず、新規性を有する。特に、総食物纖維含量(AOAC法)が90%以上の改質アラビアガム、又は、アラビアガムを110℃で24時間加熱して総食物纖維含量(AOAC法)が90%以上の改質アラビアガムを製造する方法は、何れの文献にも開示されていない。

請求の範囲1-20に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献に対して進歩性を有する。文献1-4には、総食物纖維含量(AOAC法)が90%以上の改質アラビアガム、又は、アラビアガムを110℃で24時間加熱して総食物纖維含量(AOAC法)が90%以上の改質アラビアガムを製造する方法が記載されていないし、当該製造方法は、文献1, 2に記載のアラビアガムの短時間の加熱変性方法からは示唆されない。また、本発明のアラビアガム自体は、当該特定の製造方法によって得られた特定の組成を有するものと解され、文献3, 4にアラビアガムが食物纖維源であることが記載され、また、食物纖維含量自体は精製により高めることが可能であるとしても、そのような精製によって食物纖維含量が高められたアラビアガムと本明細書に開示されている「改質アラビアガム」とは、その組成が異なるものと解されるから、本発明を文献1-4から自明なものとすることはできない。